

12月中旬 2刷り出来!

荒木経惟 ARAKI Nobuyoshi Sentimental Journey 1971-2017- センチメンタルな旅 1971-2017-



定価: 2900円(税別)

監修: 東京都写真美術館
アートディレクション&デザイン: 下田理恵
判型: B5判ヨコ/ハードカバー
288ページ(図版402点)
テキスト: 日英
ISBN978-4-908062-18-6 C0072

写真家・荒木経惟の膨大な作品群から、妻「陽子」というテーマに焦点をあて、陽子を被写体とする作品、その存在を色濃く感じさせる多様な作品によって構成される、同名写真展の公式展覧会カタログです。

荒木自らが「陽子によって写真家になった」と語るように、1960年代の出会いから1990年代のその死に至るまでの妻・陽子との濃密な時間から生み出された作品群は、写真の核心を貫き、見る者の心を揺さぶらずにはおきません。

結婚前の貴重な未発表ポジ作品や本展のための新作をはじめ、私家版として発売された幻の写真集『センチメンタルな旅』全108点を収録。もっとも重要な被写体である陽子を通じて、荒木が重要視する被写体との関係性を探り、また彼の写真の神髄である「私写真」について考察します。

タイトルの「センチメンタルな旅」は、1971年出版の写真集のタイトルでもあり、また2017年現在からさらに続く写真人生そのものを表しています。

荒木にゆかりの豪華執筆陣によるエッセイも必読、すでに500冊以上になる荒木の写真集において、決定版となる一冊です。

収録作品: 〈センチメンタルな旅〉〈東京は、秋〉〈食事〉〈センチメンタルな旅、冬の旅〉〈空景/近景〉〈三千空〉他、結婚前の陽子を撮影した60年代の未発表ポジ、陽子をテーマとする作品、愛猫チロのポラロイド、2017年撮影の最新日記シリーズ

執筆: 吉増剛造(詩人)、ユルゲン・テラー(写真家)、ビョーク(ミュージシャン)、石内都(写真家)、古屋誠一(写真家)、森山大道(写真家)、伊藤俊治(美術史家)、フィリッポ・マッジア(モテナ写真財団)、笠原美智子(東京都写真美術館)、北澤ひろみ(キュレーター)

荒木経惟 (あらかき のぶよし)

1940年東京都生まれ。千葉大学工学部写真印刷工学科卒業後、電通に入社し写真部に所属する。1964年「さっちゃん」で第1回太陽賞を受賞。1971年、妻陽子との新婚旅行を写した『センチメンタルな旅』を限定1000部で自費出版。以降、妖艶な花々、緊縛ヌード、空景、食事、東京の街、愛猫、様々な被写体から強烈なエロスとタナトスが漂う独特の写真世界を確立し、日本を代表する写真家として内外で高い評価を受けている。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail: info@tsubamebook.com
TEL: 03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)	HeHe www.hehepress.com mail: info@hehepress.com 返品条件付注文扱い 返品了解 ツバメ出版流通: 川人	
ご担当: 様	注文数	荒木経惟 センチメンタルな旅 1971-2017- ISBN978-4-908062-18-6 C0072 定価: 本体2,900円(税別)